

○トキワバイカツツジ追記 (山中二男) Tsugiwo YAMANAKA: Additional notes on *Rhododendron uwaense* Hara et Yamanaka (Pl. XVIII)

本誌 59: 290 (1984) に *Rhododendron uwaense* Hara et Yamanaka トキワバイカツツジを記載した。その際にもふれたように、この植物を知ったときは、すでに花期を過ぎていたため、記載に不備な点がありはしないかとおそれていた。その後、昨春秋と本年春に現地に出かけて、生態を調べるとともに、花芽から花盛りまでの状態を、カラーで撮影することもできた。ここにその写真の一部 (Pl. XVIII) をそえて、本種をあらためて紹介し、前報を補うことにする。

今まで調査したかぎりでは、ほかに自生地は明らかにされていない。現在わかっている生育地は、海拔 160-300 m、広くはないがその範囲ではまればではない。ツツジ属の多くのもとおなじように、本種も土壌の深い土地にはほとんど無く、比較的堅い泥質の母岩が露出するところに主として生育し、しばしば岩の割れ目に根をおろしている。耐陰性は強く、上層が常緑広葉樹でうっ閉された林内でもよく育ち、これまでに見た最大のもの根まわり 20 cm 近くになっていた。

本年も 4 月下旬には開花し、頂芽から新葉が出たあと、通常 3-4 花をつける。花は径 3 cm からときに 3.5 cm になり、わずかながら香気がある。色は株によって濃淡があり、咲き残りの花によったため原記載では、'Corolla...rosea' としたが、写真でわかるとおりフジツツジを思わすような明るい淡紅紫色 (lilac) である。

Explanation of plate XVIII

*Rhododendron uwaense* Hara et Yamanaka in bloom at the type locality. Photographed by T. Yamanaka, Apr. 28, 1985.

(高知大学 生物学教室)

□中村正寿 (編): 紀伊植物誌 III 紀州の植物覚書 271 pp. 1985. 紀伊植物誌刊行会、和歌山市。¥6500. 紀州植物の研究家小川由一氏が遺した膨大な記録を、和歌山県生物同好会の中村正寿氏らが整理したものを骨とし、多数の研究者による紀州植物の論文や報告 (再録および原稿) を集録したもの。記述は次の 5 部から成り、豊富な内容を要領よく編集している。1. 紀州の植物四季 (181種)、2. 紀州の植物 (県内各地ごとの植物の記録)、3. 植物覚書 (カツラギスミレ、群落、名木、その他)、4. 腊葉室 (植物発見の記録、植物分布、シダ植物など)、5. 資料・目録。口絵写真44、挿図と写真 180 がある。なお、小川由一: 紀伊植物誌は I 紀州路の植物と民俗をたずねて、II 高野山の植物が、それぞれ 1973, 1977 年に出版されていて、この III で完結ということになる。

(伊藤 洋)